simpler & easier に係わる a tackled player の問題

現代ラグビー第2期を志向する ELVs2008 はラグビーの更なる普及発展を目指すものですが、1970 年代現代ラグビーの胎動期と比較して考察することによって今後の指針を確認し改正の目的が達成されるための資料の一つになればと思っています。

タックルの定義が大きく異なります。立った状態でタックルが成立した時代に、地上に倒された場合について理解し、それから現在と比較しなければなりませんが、原点・本質に係わる競技の重要な部分ですので十分理解してから進めましょう。

現代ラグビー胎動期である 1970 年代当初の：*LAW 18 TACKLE (1)*

A tackled player, if lying on the ground, must release the ball immediately without playing it in any other way and get up or move away from it. He must not play or interfere with the ball in any way until he has got upon his feet.

タックルされたプレーヤーが地上に倒れた場合にはボールをプレーすることなく直ちにボールを離し、起き上がるか、またはボールから離れなければならない。タックルされたプレーヤーは立ち上がるまではボールをプレーしたり、またはいかなる方法によってもボールを妨害してはならない。（当時の訳文のまま）

簡単です。簡単なルールで十分なプレーが行われ、ラグビーが普及発展の一途をたどっていったのです。

今年のルールの確認。

	Law 15 Tackle: Ball carrier Brought to the Ground	
	15.5 THE TACKLED PLAYER	
	English	*Japanese*
(a)	*A tackled player must not lie on, over, or near the ball to prevent opponents from gaining possession of it, and must try to make the ball available immediately so that play can continue.*	*タックルされたプレーヤーは、ボールの上に、ボールをおおって、またはボールに近接して横たわって、相手側がボールを獲得するのを妨げてはならないし、プレーの継続のため、直ちにボールをプレーできるようにしなければならない。*
(b)	*A tackled player must immediately pass the ball or release it. That player must also get up or move away from it at once.*	*タックルされたプレーヤーは直ちにボールをパスするか、ボールを手放さなければならない。さらにそのプレーヤーは直ちに立ちあがるか、ボールから離れなければならない。*
(c)	*A tackled player may release the ball by putting it on the ground in any direction, provided this is done immediately.*	*タックルされたプレーヤーはボールをいずれかの方向に置くことによってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。*
(d)	*A tackled player may release the ball by pushing it along the ground in any direction except forward, provided this is done immediately.*	*タックルされたプレーヤーは地面上でいずれかの方向にボールを押し進めること（前方にではなく）によってボールを手放すことができる。ただし動作は直ちに行わなければならない。*
(e)	*If opposition players who are on their feet attempt to play the ball, the tackled player must release the ball.*	*立っている相手プレーヤーがボールをプレーしようとする場合、タックルされたプレーヤーはボールを放さなければならない。*
(f)	*If a tackled player's momentum carries the player into the in-goal, the player can score a try or make a touch down.*	*タックルされたプレーヤーが惰性でインゴールに入れば、そのプレーヤーはトライまたはタッチダウンをすることができる。*
(g)	*If players are tackled near the goal line, these players may immediately reach out and ground the ball on or over the goal line to score a try or make a touch down.*	*プレーヤーがゴールライン付近でタックルされた場合、これらのプレーヤーは直ちに手を伸ばしボールをゴールライン上またはゴールラインを越えてグラウンディングし、トライまたはタッチダウンすることができる。*

http://www.irb.com/mm/Document/LawsRegs/0/LAW15_4529.pdf
http://www.irb.com/mm/Document/LawsRegs/0/Law15JA_4846.pdf

ラグビーはボールを持って走る競技で、相手はそれを捕まえて前進を止めるというのが競技の基本形でです。tackle は cease and stop 捕まえて止めることです。捕まったらボールを放さなければならない。放されたボールをまただれかが持って走って相手陣まで攻める競技です。ボールを持って思いっきり走るのがたのしいのです。ルールは平等に、安全に、オープンプレーを楽しむことを示唆しているのです。

改めて両者を比較し相違点に焦点を絞ってみましょう。

1. 前者ではタックルは立っている状態でも成立したが後者ではそうでありません。
2. 前者では捕まったらボールを放すということが絶対プレーで、ボールを置くということはその後の派生的問題で一切触れられていません。

1.は定義の改定です。自然なプレーの流れの中で共通理解が生まれました。

2.が問題です。前者の［*ボールを放す*］一言でいわれていることが、自然なプレーの中でプレーが続くようにいろいろな場合について細部に渡って規定されています。

ボールを放すだけでは問題が解決できなくなり、置くという観念が導入されたのです。

次にその置き方がいろいろと変遷の結果、現在の(c)(d)に規定されたのです。複雑で精密なものになりました。

双方が試合に勝つことだけを考えその視点でのみプレーを工夫するのでなく、タックルでプレーが中断しないようにするという視点でプレーするとルールが生かされ展開継続が達成でき、細切れで不完全燃焼の連続による欲求不満が解消します。

ルールの主旨は不変です。改正の意図はオープンへ展開継続です。面白いラグビーの普及発達を目指す今回の改正は、IRB が数年にわたり工夫検討を重ねた結果の賜物です。ルールは整備されましが simpler & easier に進化しないということは残念なことです。敏捷性に優れているという日本人の特性をより生かすことができる改正です。日本人の敏捷性を生かして good, bright, interesting Rugby が展開されることが望まれます。そうすることが日本のラグビー人口を増やし、グローバルにメジャー国に伍していくことのできる近道であると確信します。

2008.08.31
西川　義行